



コロナ予防は入口対策からでは

この1年間、コロナ、コロナと毎日、「コロナ」を聞かない日はなく、コロナで明け暮れたものであった。コロナは人間なら誰でも感染する可能性を持つていて、自分だけは絶対に感染しないなどと自信を持って言える人はいないことが分かった。しかしコロナがいつ去り、普通の暮らしがいつ戻ってくるのか、誰にも分からない。治療薬の早期開発とワクチン効果に大きな期待を寄せているが、そのワクチン情報が少ない中、接種計画も具体化できないでいる。このまま黙ってステイホームを続けていても、人と人の接触がある限り、また感染が拡大して行くことを否定できない。

このような中、高齢者施設でのクラスター感染が報じられている。入所者が感染源のようなイメージを感じるものもあるが、コロナ感染が飛沫と接触が原因だとすれば外出しない入所者が感染源になることなどあり得ない。一番不安を感じているのは入所している高齢者ではないだろうか。感染源であ

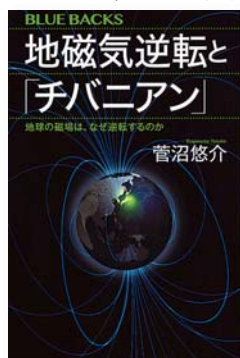
るコロナウイルスが施設内に持ち込まれない入口対策が何故論じられないか不思議だ。

飲料水では一般的に塩素滅菌が定着している。「塩素は体に有害では」と指摘する人もいるが、薬(クスリ)で無害なものなどあるのだろうか。示された基準の中で活用するから効果があるのであって、基準を超えて使用するなど使い方を誤ると副作用や有害となり、「クスリ」が「リスク」という真逆効果になることが想定される。

空間除菌を例にとれば、科学的根拠が示されているコロナ滅菌器などを玄関入口などに設置し、予防対策を講じることが、不安解消やクラスター感染を防止する大きな力を発揮するのではないか。絶対効果というものがない中、科学的根拠のあるものを一つひとつ積み重ねて行くことが感染抑止に繋がるのでは。勿論、役場、学校、せんとぴゅあなどの公共施設には滅菌器を配置し、感染予防に努めてきている。

地磁気逆転と「チバニアン」(一般書)

菅沼悠介/著 講談社/刊



地球史に、初めて日本の地名が刻まれた。それが地質年代「チバニアン」。決め手となったのは、千葉の地層から見つかった「地磁気逆転」の痕跡。なんとかつて地球には、磁石が南を指す時代があったのだ。なぜ地磁気は逆転するのか。次の逆転はいつなのか。その時地球はどうなるのか。磁石の発見からチバニアン誕生までを紐解く第36回講談社科学出版賞受賞作。

赤毛のアン (DVD)

販売元:ハピネット



プリンス・エドワード島に住む年配のマッシュとマリラ兄妹のもとにアンがやって来たのは、ちょっとした手違いからだ。最初は戸惑った兄弟だったが、アンの豊かな想像力と楽しいおしゃべりに、いつしか家族同然の大切な存在となっていく。世界中で愛されるL・M・モンゴメリーの同名作品を、孫娘ケイト・マクドナルド・パトラーの製作総指揮で映画化。(89分)

貸し出し図書ビデオ紹介

せんとぴゅあII ほんの森

【貸し出し】

図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

渋沢栄一伝 日本の未来を変えた男(児童書)

小前亮作/作 小峰書店/刊



約500の企業を育て「日本資本主義の父」とよばれた渋沢栄一。一人の力ではなく、皆の力を合わせる合本の思想で、世の中を変える。個人の利益を追求するのではなく、社会の役に立つ事業を行う。今までの知識や経験、人脈を生かせば、きっとできる。農家に生まれ、討幕派、幕臣、新政府の役人と立場を変え、やがて民間の企業人となった男の波乱と冒険に満ちた軌跡。